平成30年度医療連携推進講演会

# 超高齢社会における医療介護政策の展望―柏プロジェクトを通して

東京大学高齢社会総合研究機構

辻　哲夫

世界に例のない超高齢化が日本で進行している。

とりわけ急速に後期高齢者が急増しているが、言い換えれば、治す医療が大きく成功し、概ね誰もが長生きできるようになり虚弱な状態を経て死に至るということが普通である社会となったともいえる。このことは、とりわけ医療に対して大きな変革を求めることとなっている。

具体的には、病気を治すことを主眼としてきたこれまでの医療に加えて、「フレイル予防と在宅医療を含む地域包括ケア」へとウイングを広げていくことが大きな課題となっている。歯科に関して言えば、従来の「歯を守ることを中心とする歯科保健医療」に加えて、オーラルフレイルの予防から口腔ケアに至るまでの「食べる機能を守る歯科保健医療」へとウイングを広げることが大きな課題となっている。

これらの課題を地域レベルで解決する取り組みとして、柏プロジェクトでは、東大高齢社会総合研究機構が中心となってフレイルの構造解明と早期予防戦略の構築に取り組みつつ、柏市、柏市医師会等が中心となって、地域のかかりつけ医が在宅医療に合理的な形で取り組めるようにするための研修や多職種連携のシステム化等の様々な実践を行う一方、高齢化最前線ともいえるUR豊四季台団地で、地域に開かれた拠点型の２４時間対応の看護・介護サービスのモデルシステムの開発に取り組んでいる。

本講演では、柏プロジェクトの実践を交えつつ、超高齢社会を迎える日本の医療介護政策の展望について、歯科への期待を含めて述べてみたい。

【講師略歴】

1971年東京大学法学部卒業後、厚生省（当時）に入省。老人福祉課長、国民健康保険課長、大臣官房審議官（医療保険、健康政策担当）、官房長、保険局長、厚生労働事務次官を経て、2008年4月から田園調布学園大学　教授、2009年4月から東京大学高齢社会総合研究機構　教授を務める。現在、東京大学高齢社会総合研究機構　特任教授。厚生労働省在任中に医療制度改革に携わった。編著書として、「日本の医療制度改革がめざすもの」（時事通信社）「超高齢社会　第2弾　日本の挑戦」（時評社）「地域包括ケアのすすめ　在宅医療推進のための多職種連携の試み」（東京大学出版会）「超高齢社会　第3弾　日本のシナリオ」（時評社）「超高齢社会　第4弾　未知の社会への挑戦」（時評社）等がある。